

## 第145回 関西大学メディア懇談会 実施概要

1 日時 2023年1月27日(金) 15:00～17:00

2 場所 梅田キャンパス8階ホールおよびオンライン (Zoom ウェビナー)

3 内容

### (1) 研究発表 (15:05～15:25) ※20分×1名

発表者: 伊澤 明香 (外国語学部准教授)

別紙1

テーマ: 外国にルーツをもつ子どもへの日本語教育支援の連携・協働体制構築の在り方

### (2) 学内状況の説明 (15:25～16:25)

① 2023年度入学試験 志願者状況について

P1～+別紙2

② サイバー空間に模擬的な実社会の構築が可能! 総合情報学部・村田忠彦教授らが  
全国1,741市区町村における模擬個票の就業者の従業地を割り出す技術を開発

P6～+別紙3

③ 外国語学部・井上典子ゼミによる「堺～TSUNAGARU～アセアンプロジェクト」  
～国際都市・堺の多文化共生の実現に向けて、日英2言語パンフレットを制作

P8～+別紙4

④ 安心したキャンパスライフを! 構内女子トイレで生理用品を無償配布

P11

⑤ 2023年度の授業方針について

P12～

(その他資料)

・「関西大学カーボンニュートラル研究センター」概要チラシ

別紙5

### (3) 意見交換・質疑応答 (16:25～)

・テーマを問わず自由にご意見・ご質問ください。(音声およびQ&Aいずれでも可)

※オンライン参加の場合は、随時、Q&A機能を使っての質問を受け付けます。

※時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学関係・出席者

前田裕学長、大津留智恵子副学長、岡照二学長補佐、伊澤明香准教授(外国語学部)、  
伊藤博介入試センター所長、岩崎波留奈入試広報グループ長、村田忠彦教授(総合情報学部)、  
井上典子教授(外国語学部)およびゼミ学生、松並久典総合企画室長、藪田和広学長室長、  
植田光雄学長室次長、依藤康正広報課長 ほか

以上

【次回のメディア懇談会(第146回)について】

2023年3月中旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

## 外国にルーツをもつ子どもへの日本語教育支援の連携・協働体制構築の在り方

いざわさやか  
外国語学部 准教授 伊澤明香

### 【概要】

国内では、日本語指導が必要な外国にルーツをもつ子どもは 58,353 人と 10 年間で 1.5 倍以上増加し、母語の多様化が進み、集住化・散在化の二極化がみられる(文部科学省, 2022)。日本語指導は 2014 年に特別の教育課程に位置付けられ、2020 年に策定された日本語教育推進法の基本方針でも、外国にルーツをもつ子どもへの日本語教育の支援体制づくりの重要性が指摘されている。しかし、現状では、教職課程に日本語の免許はなく、日本語加配教員は、日本語教育の専門知識がないまま突然担当教員として一任され、戸惑うケースが多い。そのため、教育委員会と連携して子どもたちをサポートする日本語加配教員への研修を実施することは重要である。しかしながら、文部科学省(2022)によると、教育委員会主催で研修が実施されているのは 17.5% (313/1788 の自治体) に留まっている。

本発表では、日本語加配教員へ求められる研修内容と日本語指導を実施する上での課題を明らかにすることを目的とする。2022 年 6 月 15 日および 7 月 6 日に大阪府 A 市教育委員会主催の日本語指導力養成研修実施後に、日本語加配教員(延べ数 42) に対して研修の理解度、受講希望する研修内容、日本語指導上の課題についてアンケート調査を実施した。A 市は、近年少人数散在化・多言語化が進んでおり、支援体制を整えるための取り組みを実施している。調査の結果、研修の内容については、小・中学校の教科指導につながる日本語指導の仕方や教材紹介といった具体的な事例も含めた実践的なものにニーズが高いことが分かった。これは調査実施時期が比較的学期の開始時であったため、どのような教材で指導したらよいのか基礎知識を得たいという願いが窺える。特に、外国にルーツをもつ子どもには統一的な教科書があるわけではない。多様な背景がある子どもの実態を把握した上で個に応じた指導計画、教材の選択がポイントとなってくるが、必ずしもある事例がそのまま他の子どもに応用できるわけではないことも留意する必要がある。日本語指導上の課題については、管理職・学級担任との校内での連携や巡回校での連携の難しさが挙げられた。これらの結果を踏まえ、今後持続可能な教育支援体制づくりを構築していくことが求められる。

### 【プロフィール】

大阪大学外国語学部日本語専攻卒業。在学中にリオデジャネイロ州立大学教育学部に学術交換留学。グローバル企業での日本語教師、ポルトガル語通訳を経て、南米トップのサンパウロ大学大学院で日本人史上 2 人目の修士号(文学)取得。ブラジル政府の奨学生(日本学術振興会特別研究員 DC1 相当)に選出され、国際学会で優秀発表賞受賞。帰国後、大阪大学大学院言語文化研究科で博士号(日本語・日本文化)取得。そのほか、ニュージーランドや韓国(延世大学)にも留学経験があり、4 か国語を操る。専門は日本語教育学、地域日本語教育、年少者日本語教育。外国にルーツをもつ子どもへの日本語教育・バイリンガル教育を研究している。現在では文化庁、JICA、教育委員会、小・中学校での研修講師を務め、外国にルーツをもつ子どもへの教育支援体制づくりに取り組んでいる。2022 年より現職。

以上